

平成30年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>人づくり (キャリア教育の推進)</p> <p>— 自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成 —</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>①学力の向上:授業改革、基礎学力の充実 ②進路の実現:進路意識の向上、進路体験の充実、進路指導の充実 ③社会人基礎力の育成:生活習慣の確立、学習・生活環境の整理・整頓、身だしなみ・挨拶の実践、人間力の育成、自己肯定感の育成、人間関係形成力の育成 ④地域連携の推進(社会参画力の育成):青谷学、課題探究の充実・実践、地域行事への参加、青谷小学校・中学校等地域との連携、広報活動の推進</p>
---------------------------	------------------------------------------------------------------	----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

年度当初				評価結果 ()月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 学力の向上	(授業改革) ・タブレット端末等を活用した授業実践 ・生徒の学びへの意欲喚起 ・授業規律の向上	・タブレット端末を活用した授業を実施した教員は17名、授業回数189回(1月末段階) ・授業規律は概ね良いが、授業に対する興味・関心、意欲が不足。	・多くの教員がタブレット端末等を用いた魅力ある授業づくりに取り組み、生徒の主体的学びにつながっている。 (タブレットを利用して授業を行う教員が60%以上、全生徒がタブレットを活用した授業を体験) (タブレット等を活用した授業の実施によって学習意欲が向上する生徒が60%以上) ・生徒が学ぶ目的・目標を持ち、興味・関心を持って意欲的に授業に取り組んでいる。 (学校評価アンケート問14で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・タブレット端末等を活用した公開授業を各教科で実施する。 ・タブレット端末活用の職員研修を実施する。 ・生徒との面談をおとせ学ぶ意欲を向上させる。 ・授業開始時の「本時の目標」の明示を徹底する。 ・各種検定受験を積極的に推奨する。			
	(基礎学力の充実) ・丁寧な学び直しの実施 ・家庭学習の定着	・基礎力診断テストのDゾーンの生徒の割合が減少傾向にあるがまだ十分とは言えない。 ・自宅学習時間が少なく、授業の予習や復習をする習慣が定着していない。	・基礎学力の向上、定着がみられる。 (基礎力診断テストの各教科のDゾーンの生徒の割合が各年次で年度当初より5ポイント減少) ・自宅学習時間が増え、授業の予習や復習が定着している。 (学校評価アンケート問12で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・国数英を中心に目標を設定(数値化)して学び直しに取り組む。 ・それぞれの教科、科目で家庭学習の課題に取り組みせ、提出点検を徹底する。			
2. 進路の実現	(進路意識の向上) ・進路に関する各種講演会の実施 ・生徒面談の充実	・進路意識を向上させるための各種行事や講演会は数多く実施しているが、効果的なものになるように検討する必要がある。 ・定期的な面談を実施し、生徒の面談に対する評価は高まっている。	・生徒が将来のあるべき姿や進路についてしつこく考え、その進路目標を実現するために学力や社会人基礎力を向上させる努力をしている。(学校評価アンケート問16で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・生徒が面談を通じて将来の目標を明確化するとともに、日々の学校生活を改善している。	・各種進路行事が有機的に結びつき、生徒の成長につながるよう、3年間のスパンで効果的な進路指導の流れを検討し、確立させる。 ・入学当初や年度当初にキャリア教育の全体計画、年度計画を生徒に示し、自分のキャリアデザインを意欲できるようにする。 ・各種進路行事の内容を充実させるとともに、事前事後の指導(アンケート、面談等)を充実させる。 ・面談時間を確保し、充実した面談を実施する。			
	(進路体験の充実) ・オープンキャンパスやインターンシップの充実	・2年次生がサマーワークとしてオープンキャンパスやインターンシップに全員参加しているが、体験を進路意識の向上に結びつけていく必要がある。	・生徒がサマーワークの体験を通して進路目標を持ち、その目標実現に向けて努力している。	・サマーワークがより効果的なものとなるよう、組織的に取り組む校内体制を確立する。 ・生徒一人ひとりの将来の進路目標にマッチした企業でインターンシップができるよう配慮する。 ・事前事後の指導(アンケート、面談等)を充実させる。			
	(進路指導の充実) ・生徒面談等による進路目標の明確化 ・進路実現のための学力育成	・進路希望未定者が各年次とも存在し、進路目標を持てずにいる必要がある。 ・進路実現のための十分な学力が定着していない生徒がいる。	・2年次末には自分の明確な進路目標を持っている。 (進路希望未定の生徒が1年次末で10%未満、2年次末で0%) ・生徒一人ひとりが進路実現に向けて必要な学習活動(家庭学習、補習授業、校外模試等)に意欲的に取り組んでいる。	・定例の生徒面談の他、各種行事の事前事後の個別面談を実施する。 ・「学び直し」を徹底する。 ・進学希望者に対する進学補習や外部模試の受講・受験を奨励する。 ・定期的に家庭学習状況をチェックする。			
3. 社会人基礎力の育成	(生活習慣の確立) ・時間を守る(1日の日課表に沿った規則正しい学校生活の実現)	・遅刻者数が大幅に減少した。	・規則正しく学校生活を送ることができる。(学校評価アンケート問1で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・入室許可書の累積枚数を5枚以下とする。 ・学校を中心に据えた行動意識が醸成され、学校生活のルールに基づいた生活習慣が定着している。(欠席率・遅刻率が2.00%未満) ・授業は開始前に準備し、授業に意欲的に取り組むことができる。 (学校評価アンケートで「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・保護者への連絡を密にする。 ・本人の気づきを促すため、こまめに現状(入室許可書発行回数)を把握させていく。 ・クラス担任、年次、教科担任、生徒指導部等が連携しながら個別指導を行って行く。			
	(学習・生活環境の整理・整頓) ・清掃励行 ・ロッカーの整理・整頓の徹底	・校舎内はきれいな状態が保たれているが、生徒の主体的取組としては不十分。 ・ゴミ分別は全体的にはまだ不十分。 ・ロッカーの整理・整頓については、まだ不十分な生徒もいる。 ・机の上や床に私物を放置している生徒がいる。	・環境・美化意識が高まり、主体的に清掃活動に取り組む。 (学校評価アンケート問3で「思う」とする割合が5ポイント向上) ・身の周りの整理・整頓ができ、学習環境を整える習慣が定着している。 (学校評価アンケート問4で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・風紀環境委員の活動の活性化等TEAS活動を充実させる。 ・学期終了時だけでなく、定期的に机やロッカー整理を行い私物の持ち帰りを徹底させる。			
	(身だしなみ・挨拶の実践) ・明るい笑顔で気持ちの良い挨拶の実践 ・丁寧な言葉遣い実践 ・制服の正しい着こなしの向上	・自発的な挨拶が少ない。 ・TPOに合わせた言葉遣いができる生徒は多くはない。 ・制服の着こなしが大きく乱れた生徒は少なくなった。	・相手のことを思い、自発的に挨拶ができるようになる。 (学校評価アンケート問5で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・TPOに応じた正しい言葉遣いが定着している。 (学校評価アンケート問6で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・他者を意識し、身だしなみや行動を整えることができる。 (学校評価アンケート問7で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上)	・先ずは教職員の方から元気づけ挨拶をしていく。 ・生徒会執行部による定期的な挨拶運動を行なう。 ・分からない、出来ていない生徒に対しては、その場で理解させるように教職員が協力して指導する。 ・時を逃さず、タイムリーな指導を心がける。 ・あるべき姿を具体的に例示する。			
	(人間力の育成) ・人権教育・特別支援教育・性教育・食育等の充実	・生徒が自らの生き方あり方を考える機会となるよう外部人財を活用した講演会やLHR等を多く実施。 ・特別支援教育等の職員研修を実施。	・生き方あり方に関わる講演会等によって、自らの進路や生き方に対する意識が高まっている。(学校評価アンケート問17「いろいろな講演会は進路や生き方を考えるのに役立っていますか」に「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・多様性を理解・受容でき、自他ともに意見を尊重・相互理解していく力や、社会の一員として遵守すべき「公共心」や「規範意識」が身につけている。 ・学習や社会参加等への意欲、目的達成を目指して取り組む忍耐力、ありのままの自分自身を受け入れ、理想とする自己を実現するための力等が身につけている。	・可能なことはできるだけ生徒中心に取り組ませるように仕向ける。 ・外部人財を活用した講演会やLHRを充実させる。 ・職員研修を充実させる。 ・事前・事後指導を充実させる。 ・引き続き調査を実施し、分析・把握に努める。			
	(自己肯定感の育成) ・「褒める」活動の実践 ・生徒同士の認め合い	・「褒める」「褒められる」という経験をあまりしていない。 ・些細なことでも人間関係のトラブルを起こしている。	・「褒める」ことで相手を尊敬し、「褒められる」ことで自分に自信を持つ。 ・互いを認め合う関係性の構築。	・職員研修を実施する。 ・学校生活の様々な場面で、生徒個々の良さを見つけ声掛けを行い、褒めることを習慣化する。 ・学校生活の様々な場面で、互いの「良いところ」を見つけようとする努力を喚起する。			
	(人間関係形成力の育成) ・部活動の活性化 ・ボランティア活動の推進	・昨年度の部活動加入率は70.0%(H29.5.1現在)で、1年次生の加入率が低かった。 ・生徒会活動に参加する生徒が、執行部を中心とした一部の生徒に限られている。 ・昨年度ボランティア活動に参加した生徒は全校生徒の1割弱であった。 ・青谷地域の行事「あおいち」に参加したが、本校生が主体となった取組ではなかったため、生徒が有用感や自己肯定感を実感するまでには至らなかった。	・部活加入生徒の満足度が高まる。 (学校評価アンケート問20で「思う」とする割合が昨年度より5ポイント向上) ・全校生徒の5割以上がボランティアに参加している。 ・ボランティア活動を通して有用感や自己肯定感を定着させている。 (ボランティア事後アンケートで肯定的回答が50%以上)	・生徒独自の活動とならないように顧問が協力して活動を支える。 ・各顧問が部活動に参加できるように業務軽減を図る。 ・各部署で目標を設定する。 ・ボランティア情報の広報・掲示方法を工夫する。 ・ボランティアに関するアンケートを実施して、状況分析を行なう。			
4. 地域連携の推進 (社会参画力の育成)	(「青谷学」・「課題探究」の充実) ・地域への関心の高まり ・成果の発表 ・地域人財の活用	・青谷学をおとして、ジオパーク、上寺地遺跡、地域の街づくり等の関心が深まった。 ・青谷学において、お世話になった方を招待し、発表を行った。 ・社会人講師や地域の有識者による講演等を開催した。	・ジオパークを理解し、2年次ではジオパークの活用方法が考えられ、3年次ではその活用方法が実践されている。 ・課題探究と青谷学の合同の発表会が開催され、地域にも公開されている。 ・地域の学校への理解が深まり、さらなる協力が得られている。	・地域のみならず各分野に精通している人財の協力を得る。 ・「青谷総合支所だより」「あおこうだより」(PTA広報誌)を通じて本校への関心を高めるとともに、発表会のPRを行う。			
	(地域行事への参画・参加) ・生徒の地域行事への参加数増大 ・生徒の充実感・有用感の高まり ・地域からの生徒・学校への信頼・期待の高まり	・地域行事(あおいち)にボランティアとして10名参加した。	・地域行事に50%以上の生徒がボランティアとして参加し、地域からより大きな期待と信頼が得られている。 ・課題探究や青谷学での地域と連携した活動を通じて50%以上の生徒が有用感を実感し自己肯定感を高めている。	・「地域とシンクロやってみよう!」のスローガン掲示し、生徒の地域活動への参加意識を高める。 ・青谷学で、地域行事のボランティア活動への参加を推進するとともに社会人としてのルール・マナーを身につけさせる。 ・課題探究で各グループが地域行事で実践発表を行う。 ・地域行事(あおいち)に青高のブースを出す。 ・地域活動参加後、事後アンケート(参加生徒及び地域の方)を実施する。			
	(地域との連携) ・青谷小学校・中学校、すくすく保育園等との連携 ・「青谷高校活性化を支援する会」、青谷町総合支所との連携	・青谷小学校で英語の読み聞かせを実施した。 ・すくすく保育園とは、土曜日のボランティアと保育実習で連携した。 ・「青谷高校活性化を支援する会」が2回開催され、青谷学の現状と課題探究での協力依頼をした。	・英語の読み聞かせの他、課題探究の成果発表等、地域の小学校・中学校との連携が取れている。 ・すくすく保育園のボランティア参加者が昨年度より増加している。(10%増加) ・「青谷高校活性化を支援する会」で定期的な意見交換が行われ、地域で一層の協力が得られている。	・課題探究で紙芝居やポスター等を作成し、青谷の良さを小学校でPRする。 ・授業の中でも保育士や幼稚園教諭を目指している生徒への参加を呼びかける。 ・「青谷高校活性化を支援する会」に本校職員が出席し、本校の取り組みの報告をし、理解を深めるとともに地域人財の情報や実践活動の協力を得る。			
	(広報活動の推進) ・ホームページの充実と更新 ・中学生への情報発信 ・地域への情報発信	・HPが時宜を逃さず更新されている一方、一部古いデータが更新されていないところがある。 ・中学校に向けた、「あおこうだより1号」を発行した。 ・青谷町総合支所の支所だより本校の取り組みが掲載された。 ・マチコミメールを導入したが、年度途中の導入であったため登録率は53.0%だった。(1月末現在)	・HPは、古いデータが更新され、閲覧者がさらに見やすく利用しやすいものになっている。 ・学校案内が、中学生の興味関心を高め、わかりやすく受け入れやすいものになっている。 ・「あおこうだより」が定期的に発行され、中学校関係者に本校の理解が深まっている。 ・「青谷町総合支所だより」を通して、地域に本校の取り組みが理解され、関心が高まっている。	・HP更新ができる職員の数を増やす。 ・学校案内「あおこうだより」について、中学校関係者等の感想または意見を参考に更新する。 ・「青谷町総合支所だより」で、本校の魅力を地域に発信できるような積極的な情報提供する。			